虚しき日。砂濱に行ち、ひとりよがりに悲しい輪を
砂上に畫く。中に坐し、少しく哭いてみる。
沖遠く　白い哄笑が聽えてくる。青い塊へがたい
潮風に載つて。白い、絶え間ない潮騒に載つて。

穐本純也